

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム うぐいすの里		
所在地	下関市菊川町大字下岡枝1062		
電話番号	083-287-1230	事業所番号	3577800331
法人名	社会福祉法人 菊水会		

訪問調査日	平成 19 年 9 月 6 日	評価確定日	平成 19 年 12 月 23 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	17 人	常勤 13 人 非常勤 4 人 (常勤換算 8.4 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	平屋	階建ての 1	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 20,000 円	敷金	有 / 無	円
保証金	有 / 無	円	償却の有無	有 / 無
食費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額	27,000 円		
	内訳	光熱水費 その他		

(4) 利用者の概要 (9月6日現在)

利用者数	18 名	男性 3 名	女性 15 名	
	要介護 1	3	要介護 4	6
	要介護 2	3	要介護 5	1
	要介護 3	5	要支援 2	0
年齢	平均 84 歳	最低 74 歳	最高 101 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 青柳内科 下関市立豊浦病院 歯科 植田歯科菊川診療所
-------------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴(優れている点、特徴的な取組)】

(優れている点)	ホームは桜並木のある河川公園に沿った田園地帯に立地しており、散歩は自然を大いに満喫することができます。柔軟な勤務体制が生まれ、利用者の生活の流れに合わせ、したいこと、できることに寄り添い、穏やかなゆったりとした時間が流れています。ホームでは、毎年味噌作りや甘酒作り、ラッキョ漬けを入居者と共に作り、食卓で皆で味わえる日を楽しみにしています。
(特徴的な取組等)	新人教育には特に力を入れ、段階的に計画を立て、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月とユニットリーダーを指導者としてつけ実施し評価しています。現任職員は内部外部の研修へも参加し、年間の個々の目標とその達成度を判定して、自身を見つめなおすことをしています。また法人全体で"利用者・家族満足度アンケート"をとるなど、サービスの質を高める為の努力がされています。2ヶ月に1回の家族会は、家族と職員が当番制で行事計画をつくっており、そのうち年1回の1泊旅行で利用者、家族、職員との親睦が深まっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	前回の外部評価結果は、要改善点を全体会議にかけ、項目ごとに担当者をグループ分けし、改善に向けてそれぞれのグループが検討のうえ実施し、主任会議にかけて承認されれば終了としています。
(今回の自己評価の取組状況)	自己評価は全職員で勉強会を2回開催し項目ごとに検討し、全項目の評価の終了時点で、全職員の意見を聞いて主任が整理記入しました。
(運営推進会議の取組状況)	平成18年5月より、運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、メンバーは自治会長、民生委員、市関係者等10名からなり、行事の説明や自己、外部評価の提示をし、課題の検討をしたりホームに対する理解を深める働きかけをしています。
(家族との連携状況)	2ヶ月毎に家族会を開催し、会終了後担当職員と利用者、家族の三者で話し合い、介護計画や見直しに活かしています。さらに1回の1泊旅行やホーム便りの送付もあり、家族との連携はよく取れています。
(地域との連携状況)	地域の夏祭りや演芸大会、公民館での催し物への招待などがあり、出かけて地域の人々との交流をしています。定期的なボランティアとの交流はできています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>法人の理念「家庭の延長・地域に開かれた施設」を基にスタッフ全員で考え「ゆっくり一緒に楽しく」と、ホーム独自の理念を作り上げている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を介護日誌やスタッフルームに掲示し、カンファレンスやミーティング時に意識啓発、実践に向け取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の夏祭りや演芸大会、公民館での催し物への招待などがあり、出かけて地域の人々との交流をしている。 自治会には法人として加入している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価は職員全員で取り組み、外部評価の結果は要改善項目を全体会議にかけ、分担して改善計画を立て実施している。さらに主任会議で点検をしている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、メンバーは自治会長、民生委員、市関係者等10名からなり、行事の説明や自己評価や外部評価結果も提示し、課題を検討したりホームに対する理解を深めるよう働きかけたりしている。</p>	<p>・グループホームの行事等を活用した開催方法の工夫</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進協議会のみで他の連携は少ない。</p>	<p>・市と連携するための課題整理</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回のホーム便りと家族会で、入居者の暮らしぶりや健康状態を報告、金銭出納の写しも送付している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会の場や面会時に家族の意見を十分に聞いている。苦情処理の手続きも定めており、相談や苦情の受付窓口と担当職員、第三者委員や外部機関を明示して周知している。法人全体で取り組む「利用者、家族満足度アンケート」の意見を反映するよう取り組んでいる。	・利用者・家族のアンケートの継続実施
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況により、勤務体制を調整している。2ユニット間で調整し、柔軟な対応をしている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限にしており、退職者は早期に届出し、引継ぎの期間を十分にとり、ダメージを最小限にするよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ユニットリーダーを指導者として、新人職員研修を採用後1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月で実施し、評価もしている。外部研修、法人内部の研修を計画的に実施し、全職員が自身の達成目標を定め、管理者が面接評価している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会の研修会(ブロック単位3回、県2回)に参加し、他ホームの見学もして、サービスの質の向上に取り組んでいる。職員に参加の機会をバランス良く提供している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に面接とホーム内の見学を実施し、希望によりお試し宿泊も受け入れている。また家族に対して頻回の面会を依頼している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>一方的な介護にならないよう配慮しながら、行事や調理、園芸など常に「教えてもらう、お願いする、共にする」姿勢で支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>本人の生活歴や家族からの細かな聴き取りも踏まえ、本人の日々の言動の中から意向を把握し、2ヶ月に1回のカンファレンスで共有し支援している。センター方式も活用している。</p>	<p>・表現や行動から本人の思いを汲み取るスキルのアップ</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>2ヶ月に1回の家族会終了後に、本人と家族、担当職員で「望む暮らしとケア」について話し合っており、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>2ヶ月に1回ケアカンファレンスを開催し、定期的に見直し、必要に応じて随時見直している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携体制、24時間健康管理体制を活かし柔軟な対応をしている。また、生まれ故郷や小学校の訪問、買い物など個別の外泊支援をするなど、要望に応じて支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に家族と通院方法や受診結果の伝達方法等について協議しており、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	医療連携体制をとっており、看取りも行っている。利用者及び家族の安心安全のための体制づくりに取り組んでいる。	・重度化終末期に向けた知識と技術の習得
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシー保護については十分認識し、言葉かけや対応、記録等には配慮している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者一人ひとりのペースを尊重し、その日したいこと、行事への参加、外出先など希望を聞きながら支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材の買い物、調理、準備、後片付けなどできることを職員と共に行っている。利用者で作った野菜も食卓に乗り話題も豊富で、同じ食事を食べながら皆で楽しんでいる。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間は16時～21時までとしているが、希望に応じて柔軟に支援している。温泉が引かれており、入浴は大きな楽しみの一つとなっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	囲碁、折り紙、家事、園芸などそれぞれのしたいこと、楽しみごとの支援をしている。併設施設での月1回の俳句クラブやカラオケ教室、押し花クラブにも自由に参加している。年1回、利用者、家族、職員と一泊旅行を楽しんでいる。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出やドライブの日は、希望に沿い馴染みの場所、生まれ故郷、季節を感じられる場所などに出かけ、買い物も本人が楽しめるように配慮し支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	毎月のスタッフ会議で、特に言葉づかいについて確認しており、人権を尊重する丁寧な言葉づかいが実行されていた。抑制や拘束は行われていない。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者一人ひとりの状況を把握し、見守りながら日中の施錠はしていない。また地域の協力体制もある。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書とヒヤリはっと報告書をそれぞれ整備し、セーフティケア委員を各ユニットごとに置き、その都度対策を話し合い事故防止に努めている。法人全体の会議が1ヶ月に1回あり、報告検討している。緊急事態に備えた勉強会も行なっている。	・入居者の状態から予測される危険の検討と対策
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	行方不明を想定した緊急連絡等の訓練は毎週火曜日と金曜日にしており、状態の急変や事故発生に備えての訓練は、救急法講習会の受講で年2回実施している。各種マニュアルはあるが、煩雑であり、整理できていない。	・マニュアルの整理と充実 ・日常的、定期的な訓練要領の充実
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署と連携した防災訓練は年2回実施している。ユニット間で非常時の連絡対応訓練を週2回行っている。運営推進協議会でも協力依頼をしており、避難場所の確認もしている。	・消防署との連携の充実 ・地域住民の理解と協力体制づくり ・市の避難マップ充実の働きかけ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は薬の情報を理解し、服薬ごとに手渡し確認している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに声かけをし、歯磨きの支援をしている。歯ブラシや義歯の清掃、保管については、入居者の力量に合わせて支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分摂取量の記録をしバランスやカロリーの大まかな把握をしている。一人ひとりの好みや状態に応じた食事を提供している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを整備し、定期的に勉強会をして感染予防に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	フロアーには写真や作品が飾られ、廊下には座れるスペースがあり、ソファーや畳の間もあり穏やかに過ごされている。またリビングからベランダ中庭から畑へと続いており、季節の花や野菜が作られ花摘み、野菜の収穫、取れた野菜は食卓へと、しっかり季節感や生活感があふれている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベットや箆笥、テレビ、写真など馴染みのものを持ち込み、本人と家族とも一緒に心地よい居室づくりをしている。和室希望には畳を敷くなど柔軟に支援している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームうぐいすの里
所在地	下関市菊川町大字下岡枝1062
電話番号	083-287-1230
開設年月日	平成 13 年 12 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (8 月 現在)

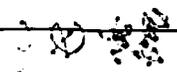
ユニットの名称	うめ館
ユニットの定員	9 名

自己評価票

うめ館

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	一人ひとりを尊重した理念を、スタッフ全員で創りそれを実行しています。法人の理念の「家庭の延長・地域に開かれた施設」をもとに考えました。	法人の理念とともにグループホームの理念も「ゆっくり一緒にたのしく」と簡潔に解かりやすく覚えるようにしている。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日記入する日誌や、スタッフルーム、ホーム内に掲示し、意識をしている。	○ 理念も利用者のニーズによって変化するものだと思うので、今後見直していけたらいいと思う。
3	○ 運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	普段からまた、行事の時なども施設長は理念に触れることが多く、玄関ホールには解かりやすく理念を示されている。	職員に、浸透している。
4	○ 運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	認知症介護の指導者の資格を持った職員がグループホーム内及び、法人の全職員会議での講義や開設記念日には地域の方、ボランティアの方々にもパワーポイントを使って、絵本「ぼくのおじいちゃん」を解かりやすく解説した。	
5	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族、地域の方との催し物では、菊水会の理念に触れ理解に努めている。グループホームの理念はうぐいす便りに毎号書いて発行している。	
2. 地域との支えあい			
6	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	利用者の方のお友達が時々来られます。その時には居心地よく過ごして頂けるように支援しています。	
7	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事に参加したり、夏まつりには「子供神輿」に施設の中に入って神輿をくぐってもらい、その年の健康を祈り利用者の方に喜ばれています。日常的に馴染みの店に買い物に出かけている。	
8	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	家族や地域のお客様を招いた開設記念日には、認知症の啓蒙として認知症介護指導者が絵本をパワーポイントを使い解かりやすく解説している。	○ 運営推進会議などを通じて、地域の高齢者の必要としていることを、知るように今後問いかけて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組んでいき たい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価項目は、職員全員で取り組んでいる。思わぬ指摘にハッと気づくことがあり、謙虚に反省する良い機会と思っより向上することを目指している。	
10	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	ご家族や外部の方の目からしか見えないこともあり(なかなか気付かないこと)気づきは大変、参考や改善になっている。	<input type="radio"/> グループホームで行う敬老会には、運営推進会議の方々にも参加していただき、利用者との交流を図る。
11	○市町との連携 事業所は、市町担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	今のところ特にはありません。	<input type="radio"/> 運営推進会議を通じて、市の方に研修をお願いしてみるよう今後働きかけて行きたい。
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	研修の折りに、話し合いを持っている。グループホームでも、研修報告を聞き話し合いを持っている。	
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	セーフティケア委員会では、毎月話題に出し防止に努めている。	スタッフ会議でも行っている。
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書は、読んで質問に答えながら進めている。	
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会の機会や、法人全体で行われる「利用者・ご家族満足度アンケート」などで把握し反映させるように取り組んでいる。	「利用者・ご家族満足度アンケート」について結果を運営推進会議で話し合いたいと思っています。
16	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回、「うぐいす便り」や「家族会」で報告している。	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		突然の事態について(事故、病気、)のときは大変である。退職については、月の余裕を持って職員の補充をしてもらえるように管理者に話をしている。
21	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		二つのユニット間でスタッフを行き来させ、ダメージが少ないようにしている。
5. 人材の育成と支援			
22	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		新人研修をマニュアル化している。
23	<p>○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		グループホームネットワークに参加して交流や、質の向上に生かしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員のシフトや、疲労、ストレスについて、言葉掛けを行い気を配り、居残りが少ないように配慮している。	
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	人事考課により自分の目標を立てて取り組むようになっている。半年間で達成する場合もあり自信につながっている。	
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	人事考課により行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	ご家族からの相談が多く、ご本人様はわからないことが多いが、できれば一緒に訪問して頂いている。	ご本人様にも、希望を聞ければ聞くようにしているが、今後も希望に添えるように取り組みたい。
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	ご家族の話を時間をとり、きちんと聞いている。その上で、できることを伝えるようにしている。	
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その方に合ったサービスの提供をお話している。また対応できない場合は、他のサービスなどの情報提供をしている。	
31	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	人居申込時、契約日などには一緒に訪問していただくようにしてホーム内を見学して頂いている。お試し宿泊も受けれることとお話している。ショートステイの届けもしている。	面接時に、生活の継続に必要な注意事項を把握している。ご家族には面会を頻回にさせていただくよう伝えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	できることは一緒に行うようにしており、畑のことや味付けなどを教えてもらう機会がある。	会話の中から教えていただくことが多い。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族とは、お互いに行事や家族会を通して会話する機会が多く相談ができ、支えあっていると思う。	
34	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	その家庭の状況に合わせている。2ヶ月に1回の家族会では、お部屋でゆっくり過ごしていただいている。	無理することのないように、自然に関係を取り戻していただけるようにしている。
35	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	日常的な買い物と、外出の日を週1～2回作り、小学校や生まれ故郷に出かけて行き交流を図っている。	馴染みの人、場所にはドライブを兼ねて出かけている。
36	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	スタッフは見守りながら、関係を支えている。日中は居間で一緒に過ごす声かけと、可能な限り職員は寄り添うようにしている。	落ち着ける方同士で座っていただけるようにしている。
37	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	街でご家族に出会った時、利用者に併設施設で出会ったときには挨拶をしている。	こちらから声かけをしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
38	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族の意向や、ご本人様の習慣などからスタッフ間で情報を共有して行っている。センター方式のアセスメントを少しずつ進めている。	センター方式シートを今後もっと活用する。
39	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族からも情報を得ているが、ケアに関係する大切なことから把握していつている。	ご家族から情報を得ている。
40	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活記録、健康記録に残している。	ケース記録・健康記録などに残している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	2ヶ月に1回の家族会で本人様を交えご家族・スタッフで望むケアについて話し合っている。	必要な場合は、Drや、他の機関の方とでもできるようにしたい。
42	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご家族の意見を聞きながら現状に応じたものを作成している。	家族会の面談でご本人を交えて行っている。
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	必要時にはその都度、話し合いを持ち活かしている。	2ヶ月に1回は見直している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制、ショートステイ、緊急時の対応など、グループホームでできることは、応じている。	医療連携体制、24時間健康管理
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事や外出のときには職員だけでなく、ボランティアに協力してもらっている。	
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)	実習生の、見学や実習を受けている。	
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	併設施設で俳句クラブや、カラオケ教室、押し花クラブが1ヶ月1回あり、継続して参加をされている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		現在関わりがないため必要性・機能がわからない。
49	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		日常的に健康管理を行っている。
52	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		スタッフの勉強会を行い知識や技術の習得に努めなければいけない。
54	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		訪問看護の利用や、ご家族の協力をお願いする。
55	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
56	<u>〇プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	その方に聞こえるくらいの声での話しかけたり、ノックを必ずするなどしている。	
57	<u>〇利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	飲み物や入浴時間、他の場面でもご本人の希望を取り入れるように聴いて行っている。	
58	<u>〇“できる力”を大切にされた家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	皮むきができる方には皮むきを、食器洗いができる方には食器洗いをして頂くようにしている。	
59	<u>〇日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事や、外出の時には希望を聞いている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<u>〇身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	なじみの美容院や、美容院にはご家族の協力を得ながら行っている。洋服など希望を聞いて着替えをしている。	
61	<u>〇食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	配膳、テーブル拭きなど、できる事を一緒に行えている。	
62	<u>〇本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	希望に沿って好きなものを召し上がって頂けるように支援している。日常的ではないが行事の時には飲めるようにしている。	
63	<u>〇気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その方に合わせた声かけと、援助を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p>〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		入浴時間帯は決めているが、その中で入りたい時間に入らせていただいている。
65	<p>〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p>〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		読書・折り紙・家事などを継続している。
67	<p>〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		買物の希望を聞いて一緒に出かけている。
68	<p>〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		会話の中に出てくる場所に、一緒に行っている。
70	<p>〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		手紙やはがきはご本人様に渡している。
71	<p>〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		入居時に、宿泊は可能であることを伝え、食事や寝具の準備もしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		<p>敬老会や、味噌作りにも参加を呼びかけて行きたい。</p>
(4)安心と安全を支える支援			
74	<p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75	<p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		<p>必要なときに、みんなが使えるように数をそろえる。(例えば、はさみ、色鉛筆など)</p>
78	<p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		<p>ケースカンファレンスで話し合っている。</p>
79	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	○	<p>その他については、定期的に行えていないので、訓練をひと月単位で行えるようカレンダーに組み込んでいく。</p>
80	<p>○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告者や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		
82	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<p>○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
84	<p>○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p>○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>	○	スタッフは必ず、声かけ・見守りを行っているためこれを続ける。
87	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	○	摂取して頂くように今後も声かけを続ける。
88	<p>○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		
89	<p>○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	駐車スペースを確保し、玄関にはプランターを置き明るい雰囲気になっている。	
91	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	その場所、その場所の雰囲気をたいせつにするように、環境づくりを行っている。	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	昼の間、ソファー、食席、それぞれの場所でくつろがれたり、お話されたりしておられる。	
93	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテンのみ備え付けだが、他の家具などはご家族が持ち込まれ、ご本人様と一緒に部屋を作られています。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度湿度計を、適所に置き常に気をつけて管理している。においについては、換気と消臭剤を利用している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	付き添いや、見守りを行うときには手をつなぐだけでなく、持って歩くことを覚えて頂くために、手すりに手をかけたり、ソファーの背を持ってもらったりしていただいている。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	見守りしながら、さりげなく出来ないところを一緒にすることで、出来るように援助している。	
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や、洗濯干し場、プランターなどが目に付くところに置いてあり、ご本人様の意思で活動が出来るようにしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの	②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームうぐいすの里
所在地	下関市菊川町大字下岡枝1062
電話番号	083-287-1230
開設年月日	平成 13 年 12 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (8 月 現在)

ユニットの名称	さくら館
ユニットの定員	9 名

自己評価票

さくら館

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	一人ひとりを尊重した理念を、スタッフ全員で創りそれを実行しています。法人の理念の「家庭の延長・地域に開かれた施設」をもとに考えました。	法人の理念とともにグループホームの理念も「ゆっくり一緒にたのしく」と簡潔に解かりやすく覚えるようにしている。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日記入する日誌や、スタッフルーム、ホーム内に掲示し、意識をしている。	○ 理念も利用者のニーズによって変化するものだと思うので、今後見直していけたらいいと思う。
3	○ 運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	普段からまた、行事の時なども施設長は理念に触れることが多く、玄関ホールには解かりやすく理念を示されている。	職員に、浸透している。
4	○ 運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	認知症介護の指導者の資格を持った職員がグループホーム内及び、職員研修で勉強会を持ったり、開設記念日には地域の方、ボランティアの方々にもパワーポイントを使って、絵本「ばくのおじいちゃん」を解かりやすく解説した。	
5	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族、地域の方との催し物では、菊水会の理念に触れ理解に努めている。又、グループホームの理念は2ヶ月ごとに発行するうぐいす便りに入れていく	
2. 地域との支えあい			
6	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	利用者の方のお友達が時々来られます。その時には居心地よく過ごして頂けるように支援しています。	
7	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事に参加したり、夏まつりには「子供神輿」に施設の中に入って神輿をくぐってもらい、その年の健康を祈り利用者の方に喜ばれています。日常的に馴染みの店に買い物に出かけている。	
8	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	家族や地域のお客様を招いた開設記念日には、認知症の啓蒙として認知症介護指導者が絵本をパワーポイントを使い解かりやすく解説している。	○ 運営推進会議などを通じて、地域の高齢者の必要としていることを、知るように今後問いかけて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	〇評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価項目は、職員全員で取り組んでいる。思わぬ指摘にハッと気づくことがあり、謙虚に反省する良い機会と思ってより向上することを目指している。	
10	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	ご家族や外部の方の目からしか見えないこともあり(なかなか気付かないこと)気づきは大変、参考や改善になっている。	<input type="radio"/> グループホームで行う敬老会には、運営推進会議の方々にも参加していただき、利用者との交流を図る。
11	〇市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	今のところ特にはありません。	<input type="radio"/> 運営推進会議を通じて、市の方に研修をお願いしてみるよう今後働きかけて行きたい。
12	〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	研修の折りに、話し合いを持っている。グループホームでは研修者の報告を聞いて話し合いを持っている。	
13	〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	セーフティケア委員会では、毎月話題に出し防止に努めている。	スタッフ会議でも行っている。
4. 理念を実践するための体制			
14	〇契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書は、読んで質問に答えながら進めている。	
15	〇運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会の機会や、法人全体で行われる「利用者・ご家族満足度アンケート」などで把握し反映させるように取り組んでいる。	<input type="radio"/> 「利用者・ご家族満足度アンケート」について結果を運営推進会議で話し合いたいと思っています。
16	〇家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回、「うぐいす便り」や「家族会」で報告している。	

2/25 2023

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>〇情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18	<p>〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20	<p>〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		突然の事態について(事故、病気、)のときは大変である。退職については、早めに言ってもらい余裕を持って職員の補充を行ってもらえるように管理者に話をしている。
21	<p>〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		二つのユニット間でスタッフを行き来させ、ダメージが少ないようにしている。
5. 人材の育成と支援			
22	<p>〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		新人研修をマニュアル化している。
23	<p>〇職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24	<p>〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		グループホームネットワークに参加して交流や、質の向上に生かしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員のシフトや、疲労、ストレスについて、言葉掛けを行い気を配り、居残りが少ないように配慮している。		
26	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	人事考課により自分の目標を立てて取り組むようになっている。半年間で達成する場合もあり自信につながっている。		
27	○ 職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	人事考課により行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	ご家族からの相談が多く、ご本人様はわからないことが多いが、できれば一緒に訪問して頂いている。		ご本人様にも、希望を聞ければ聞くようにしているが、今後も希望に添えるように取り組みたい。
29	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	ご家族の話を時間をとり、きちんと聞いている。その上で、できることを伝えるようにしている。		
30	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その方に合ったサービスの提供をお話している。また対応できない場合は、他のサービスなどの情報提供をしている。		
31	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居申込時、契約日などには一緒に訪問していただくようにしてホーム内を見学して頂いている。お試し宿泊も受けれることとお話している。ショートステイの届けもしている。		面接時に、生活の継続に必要な注意事項を把握している。ご家族には面会を頻回にさせていただくよう伝えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	できることは一緒に行うようにしており、畑のことや味付けなどを教えてもらう機会がある。		会話の中から教えていただくことが多い。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<p>〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
34	<p>〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		無理することのないように、自然に関係を取り戻していただけるようにしている。
35	<p>〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		馴染みの人、場所にはドライブを兼ねて出かけている。
36	<p>〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		落ち着いた方同士で座っていただけるようにしている。
37	<p>〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		こちらから声かけをしている。
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
38	<p>〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		センター方式シートを今後もっと活用する。
39	<p>〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		ご家族から情報を得ている。
40	<p>〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		ケース記録・健康記録などに残している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	<p>〇チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	2ヶ月に1回の家族会で本人様を交えご家族・スタッフで望むケアについて話し合っている。	必要な場合は、Drや、他の機関の方ともできるようにしたい。
42	<p>〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	ご家族の意見を聞きながら現状に応じたものを作成している。	家族会の面談でご本人を交えて行っている。
43	<p>〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	必要時にはその都度、話し合いを持ち活かしている。	2ヶ月に1回は見直している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	<p>〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	医療連携体制、ショートステイ、緊急時の対応など、グループホームでできることは、応じている。	医療連携体制、24時間健康管理
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<p>〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	行事や外出のときには職員だけでなく、ボランティアに協力してもらっている。	
46	<p>〇事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)</p>	実習生の、見学や実習を受けている。	
47	<p>〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>	併設施設で俳句クラブや、カラオケ教室、押し花クラブが1ヶ月1回あり、継続して参加をされている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		現在関わりがないため必要性・機能がわからない。
49	<p>〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		日常的に健康管理を行っている。
52	<p>〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53	<p>〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		スタッフの勉強会を行い知識や技術の習得に努めなければいけない。
54	<p>〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		訪問看護の利用や、ご家族の協力をお願いする。
55	<p>〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		認知症の状態と生活する上での必要なことを文書で伝えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56	○ プライバシーの徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	その方に聞こえるくらいの声での話しかけたり、ノックを必ずするなどしている。	
57	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	飲み物や入浴時間、他の場面でもご本人の希望を取り入れるように聞いている。	
58	○ “できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	皮むきができる方には皮むきを、食器洗いができる方には食器洗いをさせて頂くようにしている。	
59	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事や、外出の時には希望を聞いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	なじみの美容院や、理容院にはご家族の協力を得ながら行っている。洋服など希望を聞いて着替えをしている。	
61	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	配膳、テーブル拭きなど、できる事を一緒に行えている。	
62	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	希望に沿って好きなものを召し上がって頂けるように支援している。	
63	○ 気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その方に合わせた声かけと、援助を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64	<u>○入浴を楽しむことができる支援</u> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日ご本人が希望する時間に入浴できるようにしている。		入浴時間帯は決めているが、その中で入りたい時間に入っている。
65	<u>○安眠休息の支援</u> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	室温を調節したり環境を整え、気持ちよく過ごせるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66	<u>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</u> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	趣味や、好きなことが継続できるようにしている。		読書・折り紙・家事などを継続している。
67	<u>○お金の所持や使うことの支援</u> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出時や、買物のときに支援している。		買物の希望を聞いて一緒に出かけている。
68	<u>○日常的な外出支援</u> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出・ドライブの日を決めて、行きたい所やなじみの場所に行っている。		
69	<u>○普段行けない場所への外出支援</u> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	生まれ故郷や、小学校、買い物などに行っている。		会話の中に出てくる場所に、一緒に行っている。
70	<u>○電話や手紙の支援</u> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話番号を調べたり、ポストに投函するなどできないところのみこちらが行い、できるようにしている。		手紙やはがきはご本人様に渡している。
71	<u>○家族や馴染みの人の訪問支援</u> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	共通の話題で居間で会話したり、お部屋で過ごされる時には、ゆっくりと出来るように飲み物をお持ちして過ごしている。		
72	<u>○家族の付き添いへの支援</u> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	入居時に、宿泊は可能であることを伝え、食事や寝具の準備もしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p><u>○家族が参加しやすい行事の実践</u> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		<p>敬老会や、味噌作りにも参加を呼びかけて行きたい。</p>
(4)安心と安全を支える支援			
74	<p><u>○身体拘束をしないケアの実践</u> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75	<p><u>○鍵をかけないケアの実践</u> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p><u>○利用者の安全確認</u> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p><u>○注意の必要な物品の保管・管理</u> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		<p>必要などきに、みんなが使えるように数をそろえる。(例えば、はさみ、色鉛筆など)</p>
78	<p><u>○事故防止のための取り組み</u> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		<p>ケースカンファレンスで話し合っている。</p>
79	<p><u>○急変や事故発生時の備え</u> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	○	<p>その他については、定期的に行えていないので、訓練をひと月単位で行えるようカレンダーに組み込んでいく。</p>
80	<p><u>○再発防止への取り組み</u> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告者や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		
82	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<p>○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
84	<p>○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p>○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>		スタッフは必ず、声かけ・見守りを行っているのでこれ続ける。
87	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
88	<p>○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		
89	<p>○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	駐車スペースを確保し、玄関にはプランターを置き明るい雰囲気になっている。	
91	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	その場所、その場所の雰囲気をたいせつにするように、環境づくりを行っている。	
92	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳の間、ソファー、食席、それぞれの場所でくつろがれたり、お話しされたりしておられる。	
93	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテンのみ備え付けだが、他の家具などはご家族が持ち込まれ、ご本人様と一緒にお部屋を作られています。	
94	〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度湿度計を、適所に置き常に気をつけて管理している。においについては、換気と消臭剤を利用している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	付き添いや、見守りを行うときには手をつなぐだけでなく、持って歩くことを覚えて頂くために、手すりに手をかけたり、ソファの背を持ってもらったりしていただいている。	
96	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	見守りしながら、さりげなく出来ないところを一緒にすることで、出来るように援助している。	
97	〇建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や、洗濯干し場、プランターなどが目に付くところに置いてあり、ご本人様の意思で活動が出来るようにしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの	②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない